

日本気象学会 沖縄支部だより

発行：(公社) 日本気象学会沖縄支部
〒900-8517 那覇市樋川 1-15-15
那覇第一地方合同庁舎
沖縄気象台防災調査課内

2023 年度日本気象学会沖縄支部研究発表会

令和 6 年 2 月 29 日 (木)、2023 年度日本気象学会沖縄支部研究発表会を開催しましたので概要を報告します。なお、新型コロナウイルスの感染防止のため過去 2 年はオンラインでの開催となっていました、3 年ぶりに沖縄気象台に 15 名の発表者及び聴講者が集まり、対面での発表会を行いました。

1 支部長あいさつ (概要)

年度末忙しくなる中、このように発表会に集まっただき、とてもありがたく思っております。

今日は18題の発表が予定されており、コロナ時には色々と、こういう機会を持つことも難しかったのですが、従前のような活発な研究発表及び議論検討が行える機会を持つことができるようになったということで、とても喜ばしく思います。

私事が含まれるのですが、札幌管区気象台にいた時に同じように支部発表会で発表して、発表要旨を気象学会北海道支部のホームページに要旨集が載ったのですが、5年 6年前に書いたのを、たまたま北海道新聞の記者さんが見つけ私に連絡を取って、研究内容について取材されたということもありました。沖縄支部も予稿という形ではありませんけれども、支部ホームページに載せて公開するようになっています。今回の私がそうですけれども、予稿の後で今日の議論を経て少し手直ししたいところがあったら、しっかりと手直したもので掲載すれば、もしかしたら人の目に触れて、それが今後の調査とか研究に役立っていく可能性もありますので、よろしくお願いいたします。

今日は皆様活発な議論、特に質疑応答の時間もしっかりと取っておりますので、よろしくお願いいたします。

2 発表

研究発表会 (座長：(前半) 西銘理事、(後半) 吉村純) では、18 題 (琉球大学 11 題、沖縄気象台 7 題) と多くの発表に対して活発な質疑があり、貴重な意見交換の場となりました。

琉球大学からは、太陽放射に関する研究や突風事例、大雨事例解析の研究や海洋関連では海外の潮汐波、黒潮大蛇行、台風通過に伴う波高等の発表がありました。また、台風関連の熱帯低気圧との相互作用や長周期流による進路の関係、上層切離低気圧の盛衰、その他に航空機データとラジオゾンデデータの比較や北西太平洋亜熱帯水温の長期変化など様々な研究対象での発表がありました。

気象台からは、岩崎卓爾の紹介や過去の日最低気温の精査、大雨事例報告、低シーリングと海面水温との関係や二重偏波情報を利用した発雷有無、那覇の夏の蒸し暑さについて発表がありました。



発表題目 (所属 : 発表者)

- | | |
|---|-----------------------------------|
| ① 石垣島測候所草創期の役割と今後—岩崎卓爾の奮闘— | (石垣島地方気象台 : 林 和彦) |
| ② 1910~20 年代に観測された石垣島の極端な日最低気温 | (石垣島地方気象台 : 林 和彦) |
| ③ 2023 年 4 月 19 日前線暖域内における沖縄本島地方の大雨事例 | (沖縄気象台 : 小濱 俊朗) |
| ④ 2023 年 3 月 22 日線状降水帯による沖縄本島地方の大雨事例調査 | (沖縄気象台 : 中野 優子) |
| ⑤ 太陽活動 27 日周期変動の成層圏への影響 | (琉球大学理学部 : 榊原 麻希) |
| ⑥ 2022 年台風第 11 号と熱帯低気圧との相互作用前後の構造・強度変化 | (琉球大学理学部 : 津波古 和慶) |
| ⑦ 2023 年台風第 6 号の進路と長周期流との関係 | (琉球大学理学部 : 田中 星音) |
| ⑧ 2017 年 11 月 17 日糸満市摩文仁で発生した突風の原因推定 | (琉球大学理学部 : 仲石 圭吾) |
| ⑨ 二重偏波レーダー・ラジオゾンデ・Rainscope を用いた 2023 年 6 月 14 日の沖縄県での大雨事例の解析 | (琉球大学理学部 : 渡邊 朱里) |
| ⑩ 2023 年台風第 6 号通過後に発生した那覇空港の低シーリングと海面水温との関係 | (那覇航空測候所 : 鈴木 竜馬) |
| ⑪ 那覇空港ドップラーレーダーの二重偏波情報を利用した発雷有無の調査 | (那覇航空測候所 : 儀間 英斗) |
| ⑫ ここ数年の那覇の夏の蒸し暑さについて | (沖縄気象台 : 藤川 典久) |
| ⑬ 那覇空港付近の大気解析における航空機データとラジオゾンデデータの比較 | (琉球大学理学部 : 上村 亮太) |
| ⑭ 2022 年台風第 4 号(Aere)の盛衰に対する上層切離低気圧の役割 | (琉球大学大学院 理工学研究科 : 渡部 太間) |
| ⑮ Estimated Morphological Alteration in the Tidal Bore-Impacted Estuary of Kampar, Riau Province, Indonesia | (琉球大学大学院 理工学研究科 : Ulung J. WISHA) |
| ⑯ 黒潮大蛇行によって引き起こされる熊野における潮位偏差の変動 | (琉球大学理学部 : 河内 亨太) |
| ⑰ MIROC-ES2L で計算された北西太平洋亜熱帯水温の過去現在未来 | (琉球大学理学部 : シェリフ 多田野 サム) |
| ⑱ 沖縄県周辺の台風経過に伴う波高の変化と、風浪とうねりとの関係性 | (琉球大学理学部 : 阿部 優樹) |

※予稿集は沖縄支部ホームページの「お知らせ」に掲載しています。 <http://www.msjok.com/wiki/>

3 閉会の挨拶 (概要) 久木 幸治 理事

皆様、お疲れ様でした。長い間やっとうもありがとうございました。

色々な発表ありましたが、どれも非常に興味深いものだったと思います。

特に我々、琉球大学の学生が多いのですが、学生の皆さん、なかなか外で発表する機会というの

がないので、このように発表して、気象台の方から色々な質問やコメントを受けるというのは、非常に良い経験になったと思います。

これからもまた色々な機会があるかと思いますが、この機会は生かして今後頑張っていければと思います。お疲れ様でした。

(参加者22名 オンライン参加2名)

第 6 回気象サイエンスカフェ沖縄

令和 6 年 2 月 17 日 (土) に日本気象予報士会沖縄支部、沖縄気象台の共催のもと「第 6 回気象サイエンスカフェ沖縄」を開催しました。

「台風研究の最前線」として、坪木和久教授 (名古屋大学 宇宙地球環境研究所 附属統合データサイエンスセンター) を招いて、浦添市の P's SQUARE で講話が行われました。講話の前半は風水害や台風による被害が多いこと、また伊勢湾台風のシミュレーション動画など一般の方でも分かりやすい説明でした。後半は台風の航空機観測について、観測搭乗時のなかなか聞けないエピソードもあり会場からは笑いも起こり楽しい雰囲気では話が進められました。質問コーナーでは終了時間ぎりぎりまで多くの質問もあり、終了後も個別質問やサインをもらう行列ができるほど大盛況でした。

(参加者: 48 名)



(会場の様子)



(坪木教授の講話の様子)

事務局からのお知らせ

■「沖縄支部だより」の原稿募集

事務局では「沖縄支部だより」に掲載する会員からの原稿を募集しています。

沖縄支部会員の活動報告、気象知識の普及活動の状況、沖縄の気象に関する事例解析・統計調査など情報交換に役立つ原稿であればどのようなものでも結構ですので、支部事務局までご投稿ください。会員各位の積極的な投稿をお待ちします。

■住所変更届のお願い

転居や転勤により登録情報に変更が生じた際は、次の方法で手続きを行ってください。

○ご本人による手続き (オンライン申請)

気象学会本部ページの「入会案内」ページ

(以下 URL) にて登録情報の変更を行います。

<https://www.metsoc.jp/membership-2>

【方法】気象学会本部ページの「入会案内」ページにおいて、「[会員登録情報の変更](#)」画面に入り、必要事項を記入の上、送信することで手続きは完了します。ご不明な点がございましたら事務局までお尋ねください。

■メールアドレス登録のお願い

支部だより発行、総会などの開催通知等は支部全会員に E-mail で配信しています。まだ登録されていない会員の方は、会員氏名・番号、E-mail アドレスをご登録いただくようお願いします。

登録は、住所変更届と同様に、「[会員登録情報の変更](#)」からのオンライン申請でお願いします。

■日本気象学会への入会案内

みなさまの周りに気象学を専攻している・気象関連の仕事をしている・気象に興味を持っているような方がいらっしゃいましたら、日本気象学会への入会をお勧めいただくようお願いします。支部事務局までご連絡いただければ、入会方法などご案内します。